

<全国納税貯蓄組合連合会会長賞>

税について考えたこと

白河市立白河第二中学校

3年 小林 友里恵

税は社会を豊かにするためにあるものです。その社会の一員として税を払うのは当然であって、私たちはその義務を果たさなければなりません。小学生の時、少しだけ税について勉強したので税の仕組みや、税を納めなければいけない理由も分かっているつもりでした。

中学2年生の春休みに、私は市の国際交流事業で、姉妹都市のあるフランスにホームステイをしました。人の優しさを改めて感じたり、たくさんの美術品や建造物を間近で見られたりと、私にとって素晴らしい経験になりました。私は応募する前から知っていたことですが、今回の交流事業にかかる費用のうち、5万円は市の税金から補助金として出されていました。両親にも「税金で行かせてもらうのだから、しっかり学んでください。」と出発前に何度も言われました。私も自分はとても恵まれていると感じました。でもどこかで、「5万円だけ？」と思っている自分もいました。市の税金は何百億円とあるはずなのに、旅費の5分の1程度しか補助してくれないなんて…。

帰国してからは、フランスでしたことや感じたことなど、たくさん家族に話しました。その中で、私がフランスにいる間、ずっと気になっていたことを聞いてみました。「フランスって何を買っても日本より高い気がするんだけど、どうして？」すると母は、「ああ、フランスは消費税が20パーセントだからだよ。」と教えてくれました。20パーセント！私は8パーセントでも高いと思っていたのに。どうりでやたらと高い訳です。私は日本は消費税が8パーセントで良かったと思いました。

でもよく考えてみると、自分の考えが矛盾していることに気付きました。私はフランスへ行く旅費に対して補助金が少ないことに不満を持っていました。ところが、消費税を払うのは嫌なのです。つまり税金は払いたくないのに、税金によるサービスは受けたというわけです。

今まで私は税は大切だとか、みんなのために払うのだとか、分かっているつもりでした。でもこうして振り返ってみると、私は目の前のお金の動きだけを見て考えていました。やっと今、私は税の本当の意味や大切さに気付きました。補助金を受け取ったり、公共サービスを受けたりと、私たちが安心して豊かに暮らせるのは、税があってこそです。そしてその税を自分もみんなも同じように負担するからこそ、意味があるのです。私もこれからは、きちんと税について理解し、社会のために、そしてもちろん自分のためにもしっかり税金を払いたいです。また、自分が払った税金を正しく使ってもらうために、選挙にも行きたいです。それが明るくて豊かな暮らしにつながるからです。